



2022年

みやま

第289号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



令和4年7月4日から、面会制限の一部解除します

院長 平川 淳一

当院では新型コロナウイルス感染対策として面会制限を継続しておりましたが、現在の都内の感染状況から、令和4年7月4日から面会を一部解除したいと思います。しかしながら、入院患者さんの中には、高齢者や基礎疾患がありながらワクチン接種ができなかった人もいらっしゃるため、ウィルスが持ち込まれ、院内感染となった場合には命の危険があります。どうか、ルールを守って面会いただきますよう、よろしくお願いいたします。下記に大まかなルールを記載しますが、詳細は病院ホームページやご家族様宛の手紙、もしくは病院受付の掲示などをご覧ください。ルール違反やご協力いただけない場合は、せっかく来ていただいても面会をお断りすることになってしまいますので、くれぐれもご協力をお願いします。iPad面会は従来通り継続させていただきます。

1. 新型コロナワクチン接種を2回完了されたご家族（近親者および同居の方）に限ります。12歳以下のお子様やペットの入館はご遠慮ください。接種証明を確認させていただくことがありますので、ご準備してご来院ください。
2. 面会を希望される場合は予約が必要で、1家族様3名以内で、10分以内、そして週1回までとします。
3. 予約受付は平日10：00—16：00、にお電話ください。
4. 面会時間は平日13：15—18：00、土日は10：00—12：00と13：15—18：00とします。（洗濯物。私物の受け渡しも、面会時間と同様にします。）
5. 体温測定、手指消毒、面会票の記入をお願いしたうえで、マスク、手袋を着用していただきます。
6. 病院の中での外来者の飲食、喫煙は禁止です。

以上を守って、安全にご面会いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【表紙】院長あいさつ 【P2】病棟たより（A2病棟）【P3】地域生活支援科より 【P4】事務室から
【P5】退院時アンケート推移グラフー2021.7～2022.4ー 【P6】こころの扉
【P7】ADHDプログラムについて 【P8】職員紹介（医局）

A2病棟 ～患者様及び家族への関わり～

A2病棟 看護師 馬場 亮太

当院のA2病棟には、主にアルコール依存症、アルコール疾患を伴う身体合併症患者様が入院されています。今回は我がA2病棟において、患者様やご家族様への関わりについて紹介させていただきます。

アルコール依存症とは、一言で言うと「お酒の飲み方がコントロールできない病気」です。アルコールや薬物に対する依存症患者様は、「自分は依存症ではない」と否認することが多々あります。精神及び身体依存を伴う為、完治させることは困難であり、実際の患者様の中には退院後に再入院を繰り返しながら回復を目指しています。

私たちスタッフは、患者様自身が依存症であると認めてもらう為に、自分がお酒を飲んで困った事、他者に迷惑をかけた事など、振り返る機会をつくる関わりを行っています。アルコール依存症治療プログラムとして、集団精神療法の一つである「HARPP」という疾患教育ツールを活用し、自身の振り返りや断酒の方法について学習する機会を提供しています。依存症治療においては、自主性をいかに引き出すかが大切と考えています。他者に言われ、行動を変えようとされるのを拒む傾向にあります。その為、自主性を引き出す関わりとして、1日のスケジュールを考えてもらう事も大切な役割があり、そのスケジュー

ルの中に飲酒行動に繋がる可能性に気づき、受け持ち看護師と話し合う機会を設けています。

アルコール依存症の患者様の周囲には悩みを抱えたご家族様の存在もあります。そのご家族様の為に「家族教室」という物があり、医療相談員、臨床心理士、看護師がチームとなり、ご家族様向けの勉強会を行っています。実際に参加したご家族様で「気持ちが楽になりました」や「お酒が止めれないのは病気だっと思えるようになって関わり方が変わりました」など、数多くのご意見、ご感想を頂いており、励みになっています。

アルコールのみならず、薬物依存などアディクション看護に携わる者として、私たち職員は日々向上心を持って努めてまいります。皆様の周囲の方にアルコール依存や薬物依存にお困りの方は、一人で悩まず、まずは平川病院にご相談下さい。



美山ヒルズでの防災訓練について

地域生活支援室より

世話人（精神保健福祉士） 渡邊 真衣

近年、日本では様々な災害が多発しています。風水害においては2019年に発生した台風19号の影響を受けて、実際に美山ヒルズでは近隣の避難所に避難をしたこともありました。いつ起こってもおかしくない災害に備えて、今回は美山ヒルズで年に2回行っている防災訓練についてご紹介したいと思います。

〇火災・地震について

消防署員の方に来ていただき、防火防災についての講話を聞き、通報訓練や消火訓練を実施し、避難所の確認も行います。現在はコロナウイルスの影響で全てヒルズ職員が行っており、消防庁から出ている動画を視聴し、火災を起こさないために何に気をつければいいのか、実際に火災・地震が起きた場合にどのような行動をとったらいいのかを利用者の皆さんにお伝えしています。

〇風水害について

ハザードマップの確認や避難場所の確認をしています。利用者の皆さんとハザードマップをみながら、自分たちが暮らしている地域が災害によってどの程度の被害が予測されるのか確認します。また、風水害においては警戒レベルが5段階にわかれており、避難に時間のかかる高齢者や障害のある方は警戒レベル3での避難、警戒レベル4の避難指示が出されたら全員避難するよう周知しています。

また、美山ヒルズでは災害時に備えて入居者分の3日分の食品を備蓄しており、昨年度はスマートフォンの充電などを目的に、ソーラー・手動式モバイルバッテリーを購入しました。各居室にはヘルメットを常備し、懐中電灯を入居の際にみなさんに購入していただいています。

職員が入居者の方の身の安全を考え、災害時の対策を十分に把握し意識を高めることはもちろんですが、入居者の方一人一人が災害時に周囲の方々やご自分の身を守るために、どうすべきかを知っていただくことが大切であると感じています。グループホームを卒業し1人暮らしに移行した後も、美山ヒルズでの防災訓練を思い出し、役立ててもらえたらと思います。

八王子市が発行している総合防災ガイドブックには、八王子市の地域特性を踏まえた防災についての情報が幅広く記載されているため、ぜひご活用ください。



総務課 人事係として

事務室から

総務課 人事係 石堂 晴子

入職して4年、人事係として携わってまいりました。

係の立ち上げ時から「職員が気持ちよく仕事をできるようにすること」をモットーに業務を行っております。

当院の人事係の業務は、一般的な人事業務とは違っていて、大まかには以下のようになっています。

一般的な人事業務	当院の人事係の業務
・採用 ・人事評価 ・教育・研修 ・労務管理 ・給与計算 など	・入退職準備 ・証明書作成 ・外国人在留更新資料作成 ・長期休暇・介護・産休育休管理 ・人事台帳管理 など

私が心掛けているのは、このようなことです。

- ・公平であり、私的な感情をもたない中立性
- ・情報漏洩に気を付けること
- ・信頼感を持たれるような意識と行動
- ・相手の立場に立って話を聞く姿勢
- ・自己意識の向上
- ・ルールを守り、ヒューマンスキルを上げること

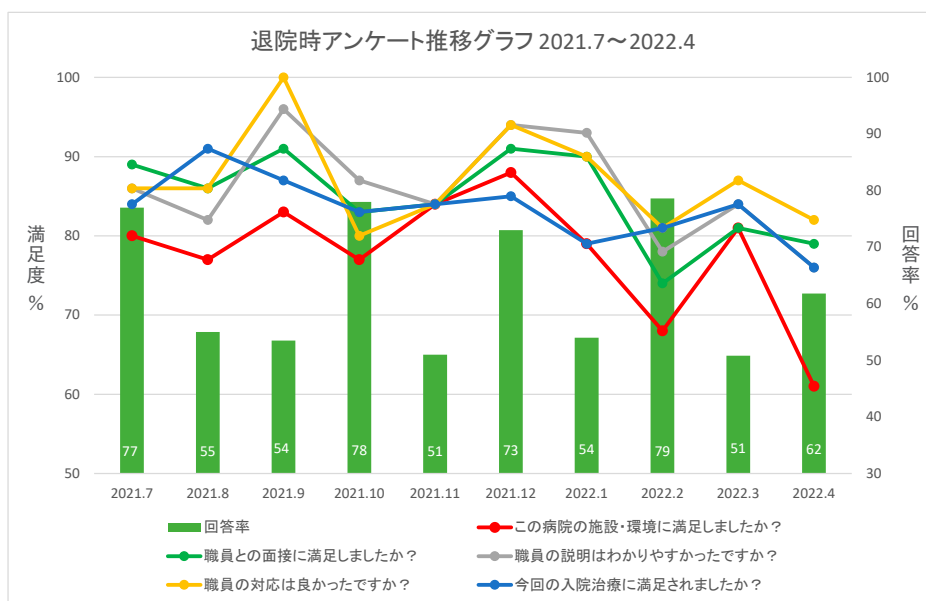


職員の笑顔は患者さんの笑顔につながっていると思っています。これからも頑張ります。

退院時アンケート推移グラフ ―2021.7～2022.4―

医療の質向上促進委員会
総務課 課長 藤川 敏男

平川病院では、退院される患者さまにアンケートのご協力いただき、その集計結果を毎月検討しております。過去約半年ごとに広報誌「みやま」へ掲載した続編として、「この病院の施設・環境に満足しましたか」「職員との面接に満足しましたか」「職員の説明はわかりやすかったですか」「職員の対応は良かったですか」「今回の入院治療に満足されましたか」の5項目（前回同様の項目）を抜粋し、今回は、前回お示しした3ヶ月を追加し、データをグラフ化しました。



※折れ線グラフは、アンケートにて「はい」と回答いただいたパーセント、棒グラフは有効回答数を示します。

2018年11月より、委員会にて「回答率を増加させる」ことを再検討し、退院時に患者様へアンケートをお渡しするなど様々な取り組みを開始しました。改めまして、ご協力いただきました患者さま・ご家族さまに御礼を申し上げます。

アンケートにご協力頂くことにより、感謝のお言葉や応援メッセージは、仕事の「励み」とし、お叱りや厳しいお言葉は「戒め」と受け止め、職員に共有いたします。是非、ご満足いただけたとばかりでなく、ご不満となった内容など、様々貴重なご意見・ご指摘をいただきたく、引き続き、アンケートへのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

上記グラフの満足度の推移を見ると、全体的に右肩下がりとなり、前回より若干低い回答をいただいています。「職員の説明はわかりやすかった」の回答が平均85.1%（前回86.7%）、「職員の対応は良かった」の回答が2021.9に100%の回答を頂き、平均85.4%など、高水準の%を維持しております。

しかしながら、前回同様「この病院の施設に・環境に満足されましたか」の回答が平均的に低く、自由記載に、「車いす用のトイレが一つしかない」や「トイレの便座が座りづらい」、「虫が多くて」、「トイレが遠い」など貴重なご意見を頂いております。徐々にトイレ設備の改善など行っており、引き続きどのような改善が必要なのか検討し、皆様のご期待に沿えるよう改善に努めてまいります。

こころの扉 その214

～ 臨床心理学や心理的援助が必要とされる時 ～

心理療法科 公認心理師 淵上 奈緒子

新型コロナウイルスの感染拡大が始まって早2年半が経とうとしています。この間に原稿の当番が回ってくるごとに、この感染症に纏わる心理学的なトピックスを紹介しつつ、一日も早く心穏やかな日常が戻ってくことを祈ってきました。

ここにきて、ようやく‘出口’が見えてきた感がありますが…それと入れ違うかのようになり、今度はロシアによるウクライナ侵攻のニュースが連日トップ報道される日々となりました。この21世紀に、まさか万が一にも核が用いられる懸念を抱かなければならない日が来るとは...

そんなことを思いながらTVを見ていた時に、ふと思い出したことがあります。私が臨床心理学を学び出した最初の頃、授業の冒頭で「戦争が始まると、私たちの仕事は減るのだ」と先生が言うのです。いわく戦争の渦中では、いっきに人々の集団凝集性が高まり、そのぶん‘個の悩み’というものに目が向くにくくなるとのこと。

一方、第二次世界大戦以降は‘戦争神経症’が注目されるようになりました。特にベトナム戦争からの帰還兵に社会復帰後も深刻な後遺症が多く見られたことは、さまざまな映画等でも描かれており、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。

これを契機にアメリカの精神医学で臨床単位としての整理が進み、現在の‘心的外傷後ストレス障害 (PTSD)’の診断基準が作られ

るに至りました。「その治療として各種心理療法が発展した側面もある」と、冒頭の言葉と共に、先生がシニカルに話していたのを覚えています。「それじゃ、これから心理の仕事を選んでも食いつぶれになるのでは?!」とチラッと不安に思った、その当時の私は、21世紀の平和を信じて疑わなかったのだな...と思います。



しかし今世紀に入ってからでもテロや紛争が止むことはなく、また日本では大規模自然災害が続いています。そのため昨今では災害や紛争などに見舞われた人々の心理的回復を支援するためのPFA (Psychological First Aid/ 心理的応急処置) というアプローチが開発され、今般の新型コロナ感染症における、D-PAT (災害派遣精神科医療チーム) による支援にも活用されています。

感染症や自然災害、ましてや戦争で、心理学が活かされたり専門職としての役割発揮の機会が増えることについては複雑な気持ちになるのを否めませんが…しかし、それらに苦しんでいる人や困っている人と共にあること、そして支えることには直接・間接問わず、たとえ微力でも、自分にできることを考えていきたいものです。

ADHD専門プログラムの立ち上げに向けて

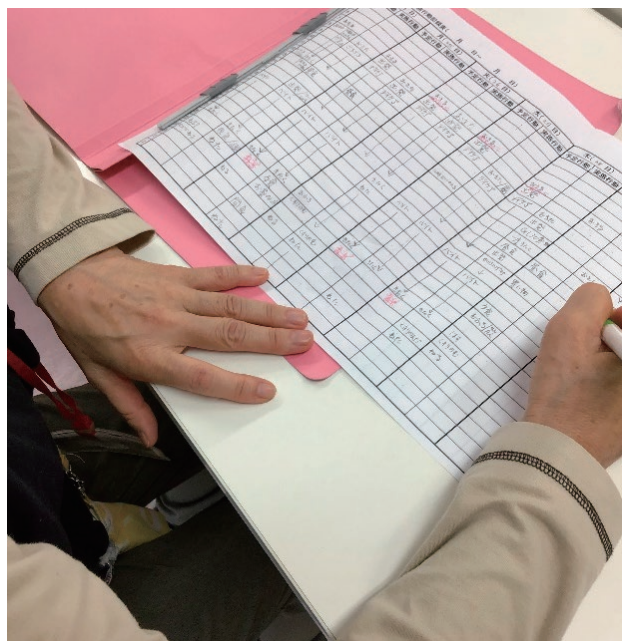
ディケア科長 公認心理師 井出 学

ディケアでは成人の自閉症スペクトラム障害（以下ASD）専門のプログラムを開催しています。ASDと並んで、成人期に診断される人が増加している発達障害に注意欠如多動性障害（以下ADHD）があります。ASDとADHDは合併しやすい障害であることも指摘されており、ASD専門プログラムが立ち上げられて以来、ADHDから生じる問題への対応も増えてきました。ADHDは不注意型と多動・衝動型とに大別されると言われています。ディケアに参加されるADHD傾向のあるメンバーが直面している課題を例に生活に即した形で障害特性を紹介します。

課題は特に時間管理と金銭管理そして人との信頼関係に現れます。注意が持続する時間の短さや衝動のコントロールの弱さから、本来やるべきことより楽しいこと・やりたいことが優先されます。時間管理でいうと、その特性が原因で、夜遅くまでゲームや大好きなアイドルの番組に夢中になり、友人との電話やメールに耽ってしまいます。「明日仕事だし」と注意を切り替えられず遅刻することもあります。金銭管理では、用途別に分けて計画的に遣うことができず、関心の赴くままに散財することがしばしばです。借金をしてしまうこともあります。結果として特に大事な人（家族、会社の仲間）との関係で信用を失うことが多いです。さらにそれを補うために事実を歪めて取り繕ってしまうので、ウソつきと思われるといった悪循環に至ります。

ディケアではADHD傾向のあるメンバーに行動記録表（写真掲載）を利用して頂いています。1日を振り返る作業を通して時間、お金、対人関係に関わる失敗がどこで生じたのか客観視します。ミーティングや面談ではゲーム課金、買い物のし過ぎなどの出来事を話し、振り返る場を持つようにしています。さらに苦手なプログラムに意図的に参加して、心と体を使いながら自己効力感をつかみ取っていく体験も大切にしています。行動の観察や制御が「ちょっと立ち止まってみよう」「時間をかけてやってみよう」という感覚につながるようです。当院ディケアにはまだADHD専門のプログラムはありません。今後、成人のADHD専門のプログラムを計画しております。

「みやま」や当院ホームページ上で紹介したいと考えております。



職員紹介(医局)

医師 山田 洸大

4月から平川病院に赴任しました山田洸大と申します。長野県の信州大学で6年間医学を学び、千葉西総合病院での初期研修を終えて2020年に東京慈恵会医科大学附属病院の精神医学講座に入職いたしました。今現在後期研修医3年目となります。これまでに大学病院でうつ病や神経症を中心に病棟管理や外来、森田療法、リエゾン医学、NSTなどを学んでおりました。

平川病院での勤務を開始して、はや1ヶ月経とうとしています。自分は主にアルコール病棟を中心に、急性期病棟の患者様も何名か担当させて頂いております。地域に密着しながら幅広い疾患を扱う平川病院の診療は新鮮で、学ぶことばかりです。スタッフの皆様に支えて頂きながら、日々自らの未熟さを痛感するとともに、やりがいと責任感ある仕事に充実感を感じております。

院長先生から頂いた言葉の中に「機械的に患者様を診てはいけない」というものがありました。患者様にはそれぞれの希望する生活があり、不安があり、家族がいると思います。患者様ひとりひとりにスタッフの方々が丁寧に寄り添っている平川病院の医療を見て、ここで研鑽を積めることに幸せを感じずにはられません。

『病気を診ずして病人を診よ』これは僕が研修をしていた慈恵医大の理念ですが、まさに人を診る精神科医として、ここ平川病院でこれからも邁進して参りたいと思います。

まだまだ若輩でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、全力で診療に取り組み皆様の一助になればと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



編集後記

6月1日は、衣替え（更衣とも）……。最近、企業や学校も時期にこだわらず、気温や気候に応じて行っている所も多いようです。衣替えは、室町時代から始まり、江戸時代には四季に応じて4回の衣替えが制度かされていたとか。現在の衣替えは、明治時代の軍人や警察官の制服が元になっているようです。中学校時代、たまたま6月1日の学年集会、なぜか2名の男子が学ランを着ていた。1人は北海道からの転校生で（東京が6/1衣替えと知らなかった）、もう1人は、体育の先生が学ラン脱げばと言ったら学ランの下に何も着ていなかった（朝急いでいた？とか）。今年の夏は、例年より暑い予報……。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

